

マーガレット・ヤング先生物語

— 愛によって互いに仕えなさい —

(ガラテヤ 5:13)



名古屋柳城短期大学



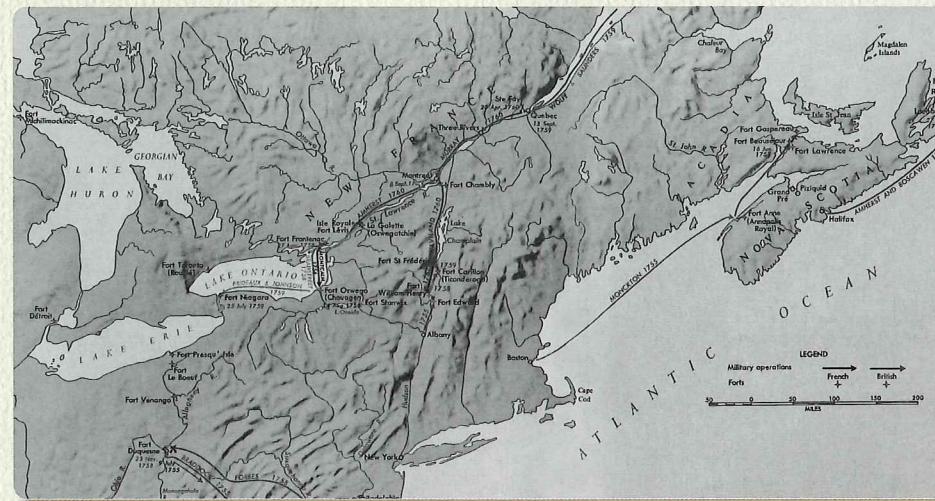
ヤング先生のふるさと



Port Burwell



Vienna



セントローレンス川より五大湖のひとつエリー湖に入るルート

私たちの学校の創設者となったマーガレット・ヤング先生は、1855（安政2）年、4月1日、カナダ・オンタリオ州で誕生され、五大湖の一つ、エリー湖のほとりヴィエンナで成長されました。今から約160年前のことです。お父様は、スコットランドのグラスゴーから、母親とともに移民としてやってきました。お父様が、最初に住んだのは、移民船の港、ポートバウエルというところでした。お父様は、母親を早く亡くし、鍛冶屋として身を立て、メアリー・アンという女性と結婚しました。そして、6人の子どもをもうけましたが、一人は生後1年で亡くなっていますので、ヤング先生は、5人の兄弟姉妹とともに成長されたことになります。しかし、お父様は、ヤング先生が6歳のとき急死されています。お母様は、残された沢山の子どもたちをどのようにして育てられたのでしょうか。



Aylmer Public School

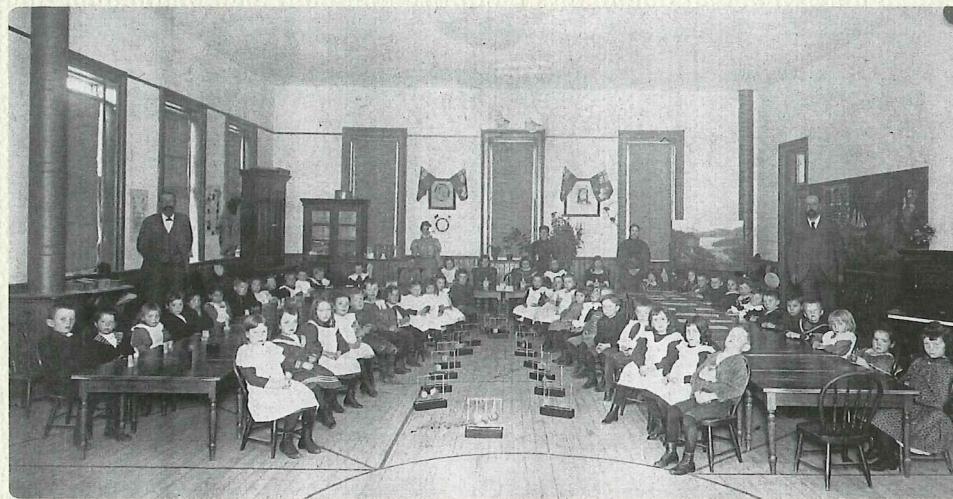
Aylmer Public School.

Attendance for January, 1892 :

ON ROLL. AVERAGE.

Mr. Hammond's Room	57	45
Miss Arnold's	39	34
Miss McPherson's	40	34
Miss A. Arnold's	43	36
Miss Martin's	53	43
Miss Inglis'	60	48
Miss Knott's.....	54	44
Miss Wickett's	56	43
Miss Young's Kinderg't'n	63	43
<hr/>		
Total	465	370

Corporal punishments—3.



Miss Young's Kindergarten



キンダーガルテンの先生として

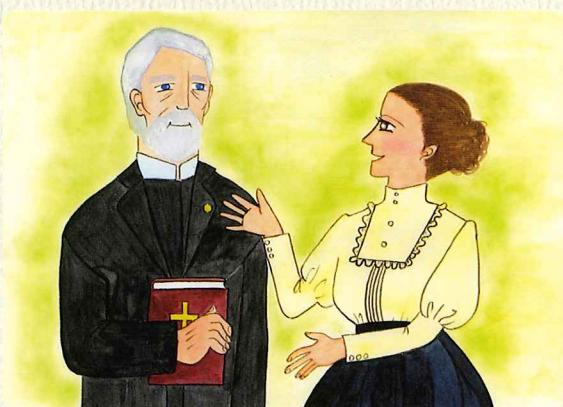


ヤング先生は、やがて成長し、優秀な成績でヴィエンナ・ハイスクールを卒業し、お姉様に続いて母校の教師になりました。この学校は、優秀な人材を社会に送り出すことでも定評のある学校でした。ヤング先生は、いくつかのハイスクールで 10 年以上教師として勤められましたが、1887（明治 20）年、その仕事を辞め、美術学校で 1 年学び、1888（明治 21）年、ハミルトン師範学校で 1 年、保育の勉強をされました。それは、キンダーガルテンが、アメリカからカナダに伝わり、正式にカナダに導入された 3 年後のことです。

学校を修了したヤング先生は、オンタリオ州で極めて早い時期に、エールマ市の最初の先生となられました。この幼稚園は、「ミス・ヤングのキンダーガルテン」と呼ばれ、ハイスクールの幼稚園部門として位置づけられていました。



来日当初、軽井沢・芭蕉句碑の前で
(ロビンソン先生撮影)



ボーマン先生・ヤング先生・ロビンソン先生他
中部教区で勤いた宣教師たち

カナダから日本へ

ヤング先生は、5年間勤めた幼稚園を退職し、宣教師となることを決意されました。ヤング先生の来日の一つのきっかけは、濃尾大地震であったと伝えられています。この地震は、1891（明治24）年10月28日に岐阜県本巣郡付近で発生し、マグニチュード8.4で、それまでの地震では最大規模といわれ、大きな被害をもたらしました。先に、日本で宣教していたロビンソン司祭は、カナダへお祈りと支援を要請していましたので、ヤング先生は、その話によって心を動かされたのではないかと推測します。当時、オンタリオ州から大陸を鉄道で横断し、バンクーバーから、日本の横浜港にくるまで船で1か月以上もかかる長い旅でした。地震からすでに4年たっていましたが、ヤング先生はついに来日されました。

さて、ヤング先生は、先に中部地区で活躍していたロビンソン先生、ハミルトン先生、トレント先生などの働きに参加しました。ロビンソン先生は、背が高くヒゲを蓄えておられますね。ヤング先生はロビンソン先生と何をおしゃべりしていらっしゃるのでしょうか？ロビンソン先生は、当時貴重であった写真機で多くの日本の風物写真を残しておられます。柳城の写真も撮ってくださっているのです。



最初の生徒



最初の生徒となった
杉浦いねさん



ヤング先生と杉浦いねさん

さて、ヤング先生の日本語の先生になったのは、金城女学校卒業生の杉浦いねさんでした。いねさんは、見識の高い家庭に育ち、女性に学問は不要とされた時代に学校の先生を目指している女性でした。いねさんは、小学校の教科書でヤング先生に日本語を教えてました。やがて、ヤング先生は、日本の女性たちが教育を受ける機会がほとんどないことに気づきました。そして、女性の地位の低さや子どもたちが放置されている状態に心を痛めました。それには、カナダで行っていた幼児教育を通し、子どもとその母親に教えることが一番有効ではないかという思いに至りました。さあ、今度は、ヤング先生がいねさんに教える番！いねさんは、熱心なヤング先生の気持ちに動かされ、ヤング先生からキンダーガルテンの思想や理念、方法を教わりました。幼稚園を始めるため、ヤング先生は、いねさんと一緒にミッショントの幼稚園として、先に日本で幼児教育を始めていた神戸や広島の幼稚園を尋ね、準備をしました。1898（明治31）年のことです。ヤング先生は、ご自分の住まい、武家屋敷の一角で幼稚園を始めることにしました。さあ、いよいよ柳城幼稚園の始まりです。



柳城幼稚園・養成所正門

幼稚園のはじまり

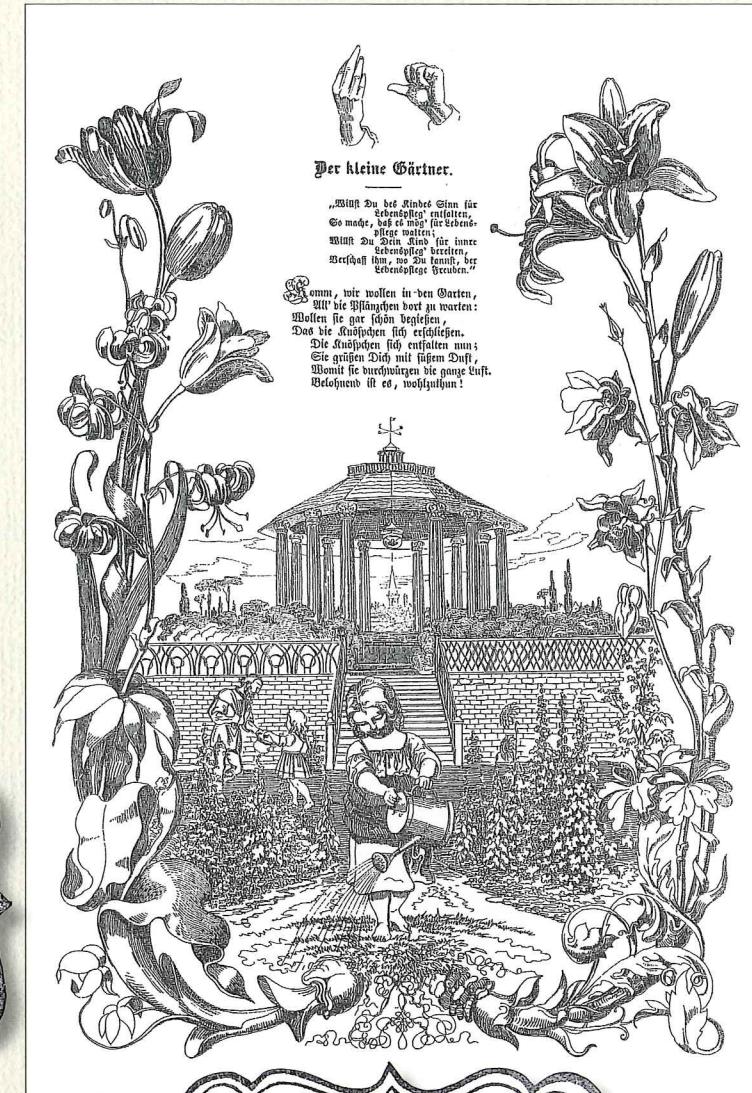


フレーベル はとの遊戯

ヤング先生といねさんは、12名を募集するため、近所に100枚のチラシを配りました。その結果、8人の子どもが入園しました。しかしそれよりもっと多かったのが見物人、子どもに付き添って来た使用人や母親、そして、大勢の人たちが、もの珍しそうに見物をしたそうです。外国人がいることだけでも珍しかった時代、その人が何をするのか、本当に興味津々だったのですね！1899(明治32)年のことです。ヤング先生と子どもたちは、楽しそうに遊戯をしていますね。ヤング先生は、神様の愛とフレーベルの楽しい遊びや歌を沢山子どもたちに教えました。英語で歌う歌も多かったようです。すばらしい保育は評判となり、すぐに、小さな部屋は一杯になり広い場所を探さなくてはならなりませんでした。何度かの引越しののち、最初の幼稚園が始まって10年余りたった明治44年に現在の柳城幼稚園の場所に1000坪の土地を入手することができました。その場所は、英國国教会宣教団体 CMS の女性のための神学校が兵庫県に引っ越し空いたからです。柳城の生徒は、この学校の生徒とともに聖書に関する勉強をしていました。



何をしているの?
ここに種を蒔こうと思ってね。
私もしたいな!
じゃ 種をあげようね!



のどがかわいたでしょう?
お水をあげましょうね。

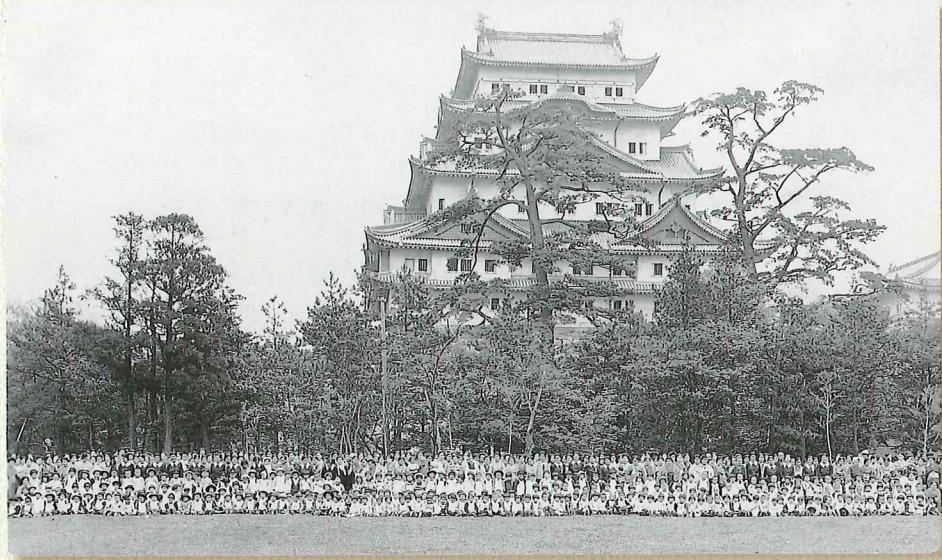


ヤング先生の保育

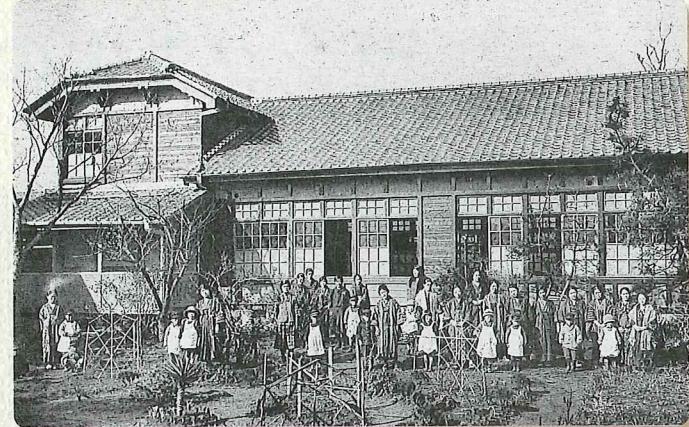


ヤング先生は、庭をとても大切にしました。庭には、フレーベルの思想にもとづいて、沢山の花、実のなる植物が植えられました。また、^{とんぼ}池があり、蜻蛉やカエル、小さな魚たち、また小鳥もやってきました。

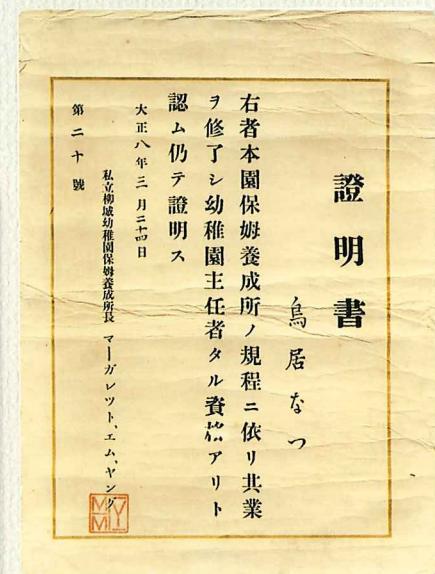
ヤング先生は、このすばらしい庭から年間プログラムの全てが取り出せるとおっしゃっています。母の日の集いは、毎年、5月か6月の花がたくさん咲き乱れるときに行われました。母の日は、子どもたちが、お母さんを招待し、お母さんの愛に感謝を表すため、お茶やお菓子を用意し、庭から摘み取った花を花束にしてプレゼントしました。また、歌やゲームで楽しく遊びました。ヤング先生は、子どもたちが他の人たちに喜びを与えることが幸せであることを学ぶように願っていました。



本園・分園の合同遠足



幼稚園・養成所



ヤング先生直筆証明書（英文・和文が一枚綴りとなっている）



ヤング先生の母親教育

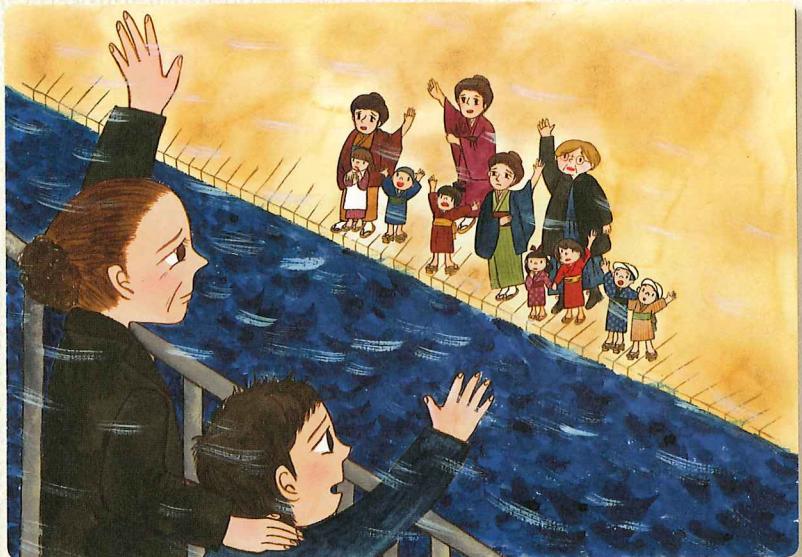


母の会の集まり



柳城幼稚園のスタッフと養成所学生

ヤング先生は、幼稚園が終ると先生たちと子どもたちの家を訪問し、母親たちと話すことを大切にしました。また、1903（明治36）年には、母の会を作りました。神様のお話とともに、栄養や健康の話、料理教室、洋裁や刺繡、英語のクラスなど多岐に渡る内容を織り込んだ楽しい会となりました。ヤング先生は、母親やその家族にも目を向けて、カナダから支援してくれている方々に日本での様子をよく報告し、時には個人の名前をあげて祈ることをお願いしました。ヤング先生のお働きで神様を信じる日本の女性も増えていきました。そして、幼児教育を学んだ柳城の生徒たちは、日本中に広がっていきました。また、幼稚園は、幅下分園、大池分園というように人々の要望に応えて次々と設立されました。



まさちゃんを連れて帰国



カナダのヤング先生

「年をとってもヤングさん！」と皆から親しまれ愛されたヤング先生。1922(大正11)年、先生は、心から信頼できるボーマン先生に柳城を託し帰国されることになりました。こよなく柳城を、そして日本を愛されたヤング先生は、27年間、一生懸命、神様の愛を伝え人々のために仕えました。「愛をもって仕えなさい」という柳城のモットーは、ヤング先生の生き方そのものでした。帰国のとき、ヤング先生は、一人の卒業生の子どもと一緒にカナダに帰りました。その人は清水正高さんといって、ヤング先生が養子にされた子どもです。正高さんは、カナダで音楽を学ばれ、後にすばらしいピアニストとして活躍されました。



再び日本へ。



ヤング先生は、80歳を越えたとき、晩年を愛する正高さんと一緒に過ごしたいと思い、名古屋に来られることを決意されました。しかし航海の途中で体調を崩し、横浜に着くとすぐに聖路加病院に入院されました。その後、名古屋でボーマン先生の手厚い看護を受けられました。時々、柳城の学生たちが聖歌を歌いに来てくれることを何より楽しみにし、学生たちも、「あんなに喜んでくださるなら、またきましょう」と言ってヤング先生をよろこばせました。時にはヤング先生からリクエストされることがあったそうです。

しばらくはお元気だったヤング先生ですが、いよいよ弱られてきました。そんななか、病床のヤング先生のもとに、名古屋市からこれまでの先生の功績に対して表彰状と記念品が届けられました。その一時間後、愛する息子、正高さんに見守られ、静かに息を引きとられました。先生の臨終の顔は、今にもほほえましげに口を開き話されるような、いとも安らかなお顔でした。1940（昭和15）年、もう、戦争の足音が聞こえてくる時代でした。





ヤング先生のお人柄



第二代校長 ボーマン先生

ボーマン先生は、ヤング先生のお人柄をこんなふうに書き残しておられます。

先生は、決して偏愛なさらず博愛的な心を持った人でした。そして、正義心と豊かな奉仕の人、祈りの人であり、その信仰が実生活に息づいていました。ご自分の意見が間違っていたと気がつかれたときは、ただちに心から率直に詫びられました。しかし、ご自分の意見が神のみ旨にかなっていると信念をもたれたときは、毅然として最後まで突き進みました。人との関係は決して一時的なものではなく、一度深く交わればその繋がりは永遠に続くようなものでした。ペスタロッチのお墓に刻まれている、*Everything for others : for himself nothing*、『すべてを人のためになし、自分のために何ものも』、というその言葉こそヤング先生に刻まれる言葉です、と述べられています。

ボーマン先生は、ヤング先生のノートに書かれていた次の詩を紹介してくださいました。

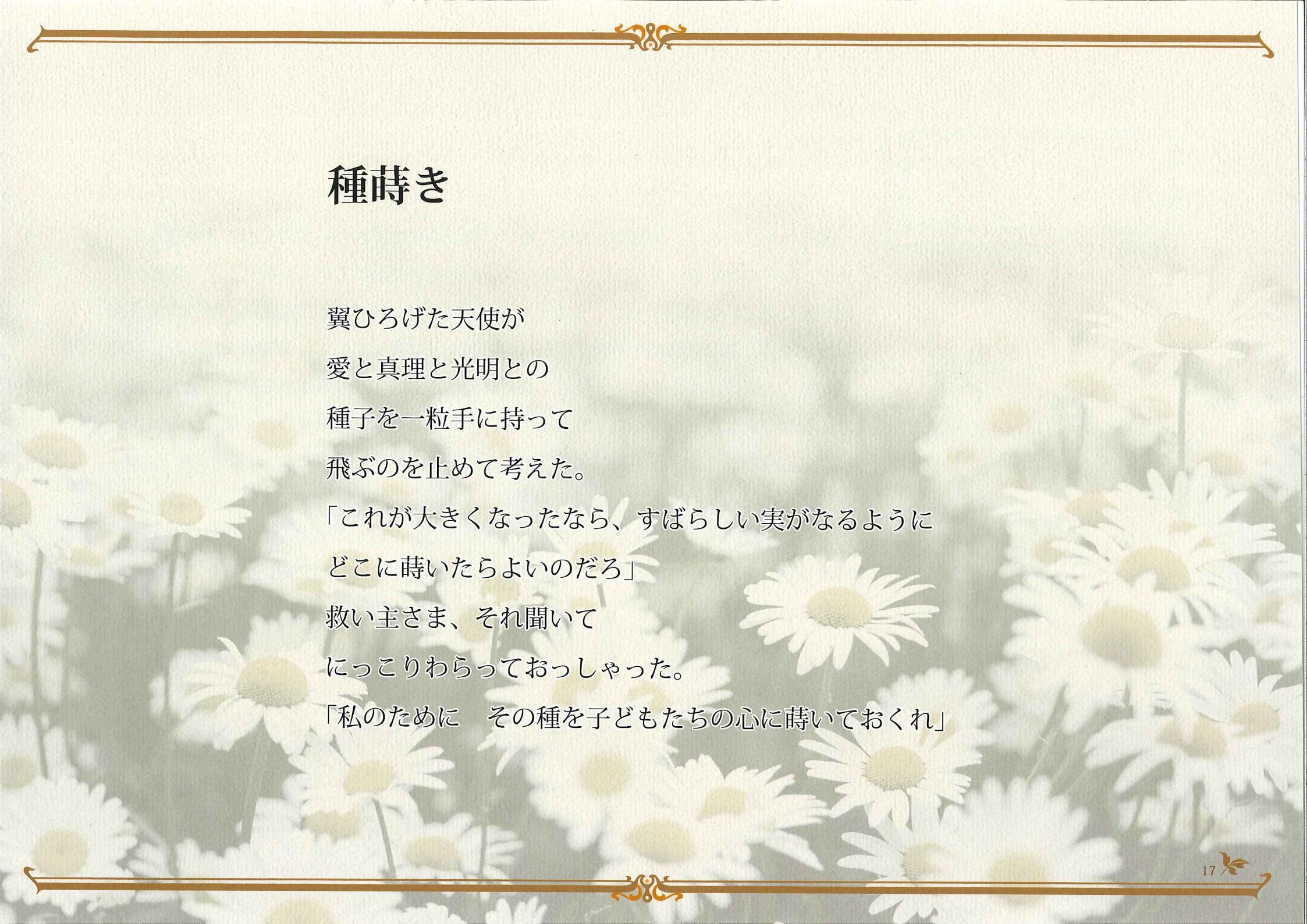




種蒔き

翼ひろげた天使が
愛と真理と光明との
種子を一粒手に持って
飛ぶのを止めて考えた。

「これが大きくなつたら、すばらしい実がなるように
どこに蒔いたらよいのだろ」
救い主さま、それ聞いて
にっこりわらっておっしゃった。
「私のために その種を子どもたちの心に蒔いておくれ」



1906（明治39）年10月

最近わたしたちは、幼稚園と日曜学校で、祈りの大切さについて多くのことを語っています。主任の先生が、どんな時にお祈りするのか聞いたところ何人か発言しましたが、日曜学校に来ている男の子が、こんな話をしてくれました。彼は2週間前、彼のお父さんが東京に行く準備が出来たとき、恐ろしい嵐がたけり狂っていて、お父さんが心配し始めていることに気が付きました。彼は、妹と部屋の隅で、神様が嵐を去らせて、お父さんが心配しないようにお祈りしました。その後、少しすると次第に嵐が静かになり、雨は少し小降りになりました。使用人が人力車を呼びに行って外に出るまでは、雨はほとんど止み、お父さんは心も晴れて出発することができました。「私たちは、とても嬉しかった」と言いました。この小さな子どもは、もっともおとなしい子どもで彼の声を聞いたことがないのですが、神様が彼に対してしてくださったことがとても嬉しかったので、それを語らずにおれなかつたのです。

1910（明治 43）年 10 月

少し前に、私たちは柳城の子どもたちを幅下へ連れていき、幅下の幼稚園が初めての子ども達に長いこと訓練を受けてとても上手に遊べるようになつたいくつかのゲームを見せました。子どもたちを 2 マイル離れたところに連れていくということも、親切な友人クック女史が人力車を頼んで、子ども達皆のためにお菓子とかき氷を買ってくださったので、可能になりました。そして、こんなに行儀の良い子どもたちはありませんでした。嬉しそうに一緒に遊び、午前中とても楽しく過ごしました。人力車に乗った子どもたちの行列は、皆から注目され、確かに一枚の絵となりました。幅下に住む二人の人が、この子どもたちは誰なのか、どこへ行くのか尋ねました。後で、その人々は子どもの入園を申し込んできました。

1919（大正 8）年

大池分園の小さい少女が今年の夏、2人亡くなりました。一人は、とても可愛いクリスチヤンでした。昨日の午後、彼女のための記念会をしました。彼女の父母は、彼女の信仰について語ってくれました。一応仏式で葬式はしたのですが、その後二人は、幼稚園の教師と園児に対して、彼らの6歳になる娘がイエス・キリストを固く信じており、そのことによって彼女がとても慰めを得ていたことを告白しなければならないことに気づきました。彼女は、聖書のみ言葉と聖歌を繰り返していました。彼女は、常に神様に感謝し、食事の前には必ずお祈りしました。召される2日前に彼女は、「空の鳥は小さくとも」を歌いました。彼女の体は、病気で弱って苦痛に満ちていたのですが、顔は内面的な喜びで輝いていました。両親は、ことのほか感動していました。特に母親は、娘の死が立派だったので、同じ真理について学びたがっています。彼らが主がもたらしてくださる喜びを知るように願っています。

1907（明治 40）年 11 月



私は幼稚園の男の子にあるいは、幼稚園の子全員に「杉浦先生は、多くのことを教えてくれましたが、先生が教えてくださったことのなかで、最も素晴らしいことは、何ですか？」と尋ねました。一人の男の子が快活に言いました。「生きている神様のことです！」杉浦先生は、信仰と靈に満ちた方です。神様は、彼女が蒔いた種をきっと祝福してくださるでしょう。というのも、私たちは信仰に蒔かれた「言葉」は、実を結ばないことはないと聞いているからです。彼女が辞めるので、秋にはこれまで以上に、経験を積んでいない先生たちと一緒に始めなくてはなりません。彼女たちは、勉強のために 1 年 4 か月一緒に居ましたが 3 人は、僅か 4 か月一緒にいただけです。彼らの未熟さのために仕事がさまたげられないように真剣に祈り求めます。神様は、彼女らをその栄光のために用いてくださるでしょう。私は、彼女らと多くの時間を過ごさなければならぬでしょう。ですから、私のためにも祈ってください。彼女らを一人前の先生に導くために知恵が与えられますように。そして、聖靈が彼らを教え、主の奉仕によって彼女らが豊かに用いてくださいますように。

ヤング先生のこの想いは、主にあって、今も私たちの柳城学院のために、捧げられている祈りです。そしてまた、創設者に引き続いで受け継いできた、多くの教師や卒業生、職員に受け継がれて来た祈りです。

「愛によって互いに仕えなさい」（ガラテヤ 5：13）、この建学の精神持つて、私たち一人ひとりが共に歩んでいくことができますように！！

主がこれまでの道のりを守ってくださったことに感謝して。

（文責 尾上明子）



名古屋柳城短期大学

〒 466-0034 名古屋市昭和区明月町 2-54
TEL 052-841-2635 (代表)
FAX 052-841-2697